

Twinkle No.10 2017.11.01

川崎こどもクリニック附属病児保育室リトルスター <http://www.kawasaki-kc.jp/littlestar.html>

〒597-0102 貝塚市木積 607-10 TEL/FAX 072-446-0415 little-star@kawasaki-kc.jp

くすりの話④ 咳の薬（その1）

咳の薬として処方される薬には、その作用からいくつかに分類することができます。それが鎮咳薬、去痰薬、気管支拡張薬などです。今回はまず鎮咳薬と去痰薬について考えてみます。

【鎮咳薬】

咳中枢に作用して、まさしく咳を止める薬です。さらに麻薬系のコデイン類と、非麻薬系のデキストロメトルファン（医療用ではメジコン®）などに分類する場合があります。ただし、咳を止めることにこだわって、痰を伴う湿性咳嗽（ゴホンゴホン）にむやみに投与すると、痰の排出を抑制し、風邪をこじらせる可能性もあります。

麻薬系の作用は強いですが、その副作用もありますので、市販の子ども用風邪シロップなどには含まれていません。逆に、大人向けの市販風邪薬（ルル®, ベンザ®など）にはほぼ含まれています。したがって、子どもの薬が手元にないからといって、素人判断で大人の風邪薬を減量して飲むことはお勧めできません。また、喘息の発作

での咳については、使用は禁忌となっています。

非麻薬系については、少し作用は弱く（副作用も少なく）なるため乳幼児でも使用されます。市販の子ども用風邪シロップにも含まれますが、できるだけ乾性咳嗽（コンコン）に限定して使用した方がよいと思われます。

【去痰薬】

カルボシステイン（ムコダイン®など）やアンブロキシソール（ムコソルバン®など）などが含まれます。医療機関で処方される風邪薬にはほぼ必ず含まれる成分です。それぞれの薬剤の作用は少しずつ違いますが、基本的に痰や膿の粘りを減らし、排出しやすくします。また、荒れた副鼻腔粘膜や気管支粘膜の線毛細胞を修復したり、線毛運動を活発にしたりします。粘膜の抵抗力を高め、肺表面活性物質を増やして気道粘膜の“すべり”を良くする作用もあります。これらが総合的に作用することで、痰や膿の排出が容易になり、つらい咳の症状が楽になるわけです。

マスクの正しい付け方

インフルエンザなどの患者さんのくしゃみや咳の中には多数のウイルスがいます。口や鼻から吸い込むことで入ってきます。それを阻止するのがマスクです。感染予防のためガーゼマスクより不織布で作られた使い捨てマスクがお勧めです。当然正しく使用してこそ効果があります。①鼻に当てる部分がある場合はそれを上にして顔に当て、



ゴム紐を耳にかけて固定します。②マスク本体部分を上下に引っ張って、鼻からあごまでぴったりとおおうようにします。

③鼻に当てる部分を曲げて、顔に密着させます。

マスクをしている方を見ていると、ちゃんとしてつけられていない方も多いです。息が苦しいからなどと言って鼻を出したままでは何をしているのかわかりません。さらに付け加えれば、正しいはずし方も知っていて下さい。はずす時は、ウイルスが付着しているかもしれないマスク本体には触れず、耳にかけているひもを持つてはずし、そのまま捨てるのが望まれます。ときおり、装着中にマスク本体の中央を指でつまんで引っ張ったりしているのを見かけますが、ナンセンスな行為、不潔な行為ということになります。